集団文化と読書

中井正一

青空文庫

「金沢文庫」「足利文庫」などといっていたものが、「図書館」となるには、なんといっても、時代の流れを感ぜずにいられない。封建領主の財宝であり、庫の中に収められる所有物であったものから、大衆のサービスの対象となり、旅館のような、茶館のような大衆の共有物となる事は、大きな一つの変革であった。

一つの都市に、喫茶店の如く二百の図書館が散在するというアメリカの図書館は、この大衆サービスのかたちの図書館の本質的なすがたというべきであろう。アメリカには、個人が五千、六千の蔵書をもつという事は稀であるという。図書館の方に「より完全な」「より便利な」蔵書が待っているというわけである。日本は今大体それに向いつつあるのである。（ところが大学図書館などでは、生徒への開架（オープンアクセス）を禁じはじめたのは滑稽な逆行ともいえるであろう。）

このサービスとしての図書館に向いつつあるこの傾向、「文庫から百貨店のような図書館へ」の一九〇〇年代のスローガンは、五一年の段階で次の飛躍を試みつつある。C・I・E図書館が、本名はC・I・Eインフォーメイション・センターである事がそれである。それは本を読む機能を一歩進め、情報を集める中心、中央気象台と、その一環の組織体のような網の目となりつつある。

国会図書館の綜合目録、（全国の図書館の目録を一カ所にうつしとるという二十五年計画）のような問題、また全国納本の目録カードを印刷して、全国図書館に安い値段で流す印刷カードの問題などはそのあらわれである。国会図書館は二十七の支部図書館（各省及び司法図書館、上野図書館、東洋文庫、静嘉堂文庫、大倉山精神文化図書館等）があって、四百万冊の本があるが、G・H・Qあたりから私の処に電話で問い合わせがあると、二十分間もすれば、十本の電話がこの二十七の図書館網になげかける問い合わせで、本が出て来る。これなどは、一つのインフォーメイション・センターのあらわれである。

この機能では図書室、蔵書よりも、カードの精密な整備こそが大切なのである。ここでは読むことは、読む場所のスペースとか本の量を問題とするよりも、読む働きであり、読む機能を問題とするのである。カッシラーのいう「実体概念より機能概念へ」という考え方は、今正に、図書館界にあらわれたる新しい動向である。農林省にまだ図書室のなかった時、近藤康男氏を中心とする調査局、渉外局、八つの研究所を打って一丸とする調査網は、それは図書課として、我館のアメリカ官庁出版物の五〇パーセントを読んだのであった。図書室が焼けてしまっても、カードとリストが完備すれば、資料の使用は不自由はしないのである。

また本の方も、フィルムの出現で、マイクロ・フィルムに、新聞、雑誌、本を、一コマ一コマのフィルムに「レコーダック」で撮影することで、その保存スペースの便利、保存期間の延長について革命的な世界が展けて来たのである。またマイクロ・カードといって、普通のカードに百頁から三百頁の本が、縮めて写真にうつし込まれるのである。日本でも今、百頁ぐらいまで成功している。これが発展すれば、トランクの中に三万冊の本が入るということができることとなるのである。勿論前二者の読む機械も日進月歩している。このマイクロフィルム、マイクロ・カードは、今集団的読書機構の将来に対しては、容易ならざる展望をひらいていると思われるのであ

る。新聞紙を日本全国のを残すということは、この方法をのぞいては考えられないのである。しかも、三十年前の新聞がカードをくればすぐ出て来るという組織に組立てるには、これは絶対に必要な事となる。

読書と本がかかる長足の進歩をしている時、出版界も決して立後れることは出来ないと思われる。日本の出版界は未だ、単一の組織体としての出版研究所なるものをもっていないが、例えばベスト・セラーズの東京から豊橋、豊橋から長崎へといった、宣伝の波動移転速度の測定といったような事はまだ試みられていないのである。

配給網は、小売に渡したら、数カ月で、一斉に取りかえす。取りかえされた頃に、ベスト・セラーズが売れだすといったことが、未だくりかえされているのである。図書館自体が今や、購買対象の組織たらんとしつつある。この網と、新聞と、販売網でクェスチョネールの計画性をもつならば、マッス・コミュニケーションとしての読書心理の研究が可能であり、この時はじめて科学的な出版企画が、成立するのである。

海図のない航行、これが出版界の現状である。このレーダー時代に、和寇戦法を用いているのが、今の出版界である。正にアナクロニズム時代逆行というべきであろう。

青空文庫情報

底本：「論理とその実践――組織論から図書館像へ――」てんびん社
　　1972（昭和47）年11月20日第1刷発行
　　1976（昭和51）年3月20日第2刷発行
初出：「読書人」
　　1951（昭和26）年7月
入力：鈴木厚司
校正：染川隆俊
2007年11月22日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

集団文化と読書

中井正一

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/